

〔国際会議開催〕

|         |                                                |         |
|---------|------------------------------------------------|---------|
| 申 請 者   | 光産業創成大学院大学 学長 教授 加藤 義章                         | 2155002 |
| 国際会議名称  | Optics & Photonics International Congress 2016 |         |
| 開 催 期 間 | 2016 年 5 月 17 日～5 月 20 日                       |         |
| 開 催 場 所 | パシフィコ横浜 会議センター（横浜市西区）                          |         |
| 申請者の役割  | 組織委員長                                          |         |

概 要：

光・フォトンクス技術は、従来にない創造的・革新的なツールとして情報、エネルギー、制御、加工、バイオ等の科学・産業技術のあらゆる分野の基盤技術であり、『人間と機械の調和の促進』に必須な技術である。本国際会議では光・フォトンクスに関連した 11 専門国際会議を同時に開催し、異分野との交流を深め連携を促進して、光をいかに制御して人間社会に貢献できるかの観点から、最新成果を我が国から世界に向けて情報発信を行った。

本会議には国内外の 1,000 名以上（32ヶ国）の第一線の研究者が参加し、光源・光センシング技術、バイオイメージング技術、レーザー加工技術（3D プリンティング等）等の基礎から応用技術までの最新技術成果の発表・議論がなされ、発表論文総数は 700 件を越え、名実共に有意義な国際会議となった。

プレナリー講演では菅原充博士（QD レーザ社）の「虹彩結像レーザーアイウェア」による弱視補助への報告が有り、SLPC2016 では独フランホーファ研究所長、R. Poprawe 博士の招待講演で「将来のスマートファクトリーを見据えたレーザプロセスの産業応用」と題した Indusry4.0 プロジェクトの最新動向が紹介された。また、ALPS' 16 では、癌や血中の物資の THz イメージング/センシング、BISC' 16 では、補償光学技術による新たなバイオイメージングやドブラーと偏光依存性を利用した高速光コヒーレンストモグラフィーの臨床分野への寄与、発展の最新報告がなされた。LSSE2016 では、社会インフラの補修整備に関するプログラムを設け、人間社会への「レーザーソリューション」による成果が多数報告された。